

政務活動実施報告書

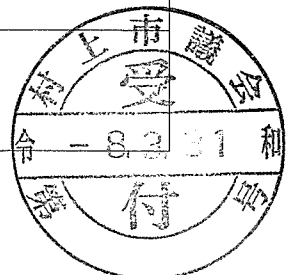
令和8年3月31日

村上市議会議長 三田 敏秋 様

議員名 小杉 武仁

私は、下記のとおり政務活動を終了しましたので報告します。

用 務 名	各種施設の建設及び運営に係る現地視察（山形県・宮城県）
実 施 日 時	令和8年3月26日（木） 午前 10時00分 ～ 午後 5時00分 令和8年3月27日（金） 午前 8時15分 ～ 午後 5時00分
用 務 先	山形県：米沢市（道の駅米沢）山形市（道の駅やまがた蔵王） 宮城県：白石市（白石斎苑）柴田郡村田町（柴田斎苑）
参加議員名	※同行議員がある場合記入すること。 小杉武仁・尾形修平・鈴木一之・魚野ルミ・大滝国吉・河村幸雄・鈴木いせ子・三田敏秋・富樫雅男・渡辺昌・川村敏晴
全体参加者数	※同行議員がある場合記入すること。 11 名
概要及び所見	※記載欄が不足する場合は別葉に記載すること。 別紙 視察研修報告書のとおり
備 考	



別紙

令和7年度 視察研修報告書

令和8年3月26日から27日までの日程で実施した、政務活動による視察研修について、次のとおりその状況を報告します。

議員氏名 小杉 武仁

調査事項	1 「道の駅 建設・運営事業」(山形県 米沢市 道の駅米沢) 現地調査 2 「道の駅 建設・運営事業」(山形県 山形市 道の駅やまがた蔵王) 現地調査 3 「火葬場 建設・運営事業」(宮城県 白石市 白石斎苑) 現地調査 4 「火葬場 建設・運営事業」(宮城県 村田町 柴田斎苑) 現地調査
調査項目	1. 第3セクター方式による道の駅の運営について 2. DBO 方式による道の駅の運営について 3. DBO 方式による火葬場の管理運営について 4. DBO 方式による火葬場の管理運営について
調査目的	今後、本市でも整備が検討されている各施設の建設及び運営に関して、民間活力を導入して運営されている施設について、調査・研究・検討することを目的とする。

1 道の駅 米沢

運営主体：第3セクター（県・市・団体・民間） 山形県・米沢市からの指定管理
管理・運営を米沢市と30の企業・団体が出資する第3セクター「株式会社アクセスよねざわ」が行っている。

【事業費】

総事業費 23億3,573万円

県 5億4,654万円・市 17億8,918万円（補助金 3.9億円、地方債 9.8億円、一般財源 4.1億円）

※資金調達にあたり市民公募債の方法も活用

【施設概要】

敷地面積 21,677㎡ 建物本体延床面積 1,836㎡ 駐車場：大型車用 30台 普通車 130台
パーク&ライド用 25台 臨時用（防災支援）38台 ※普通車最大 198台

道の駅米沢は平成30年4月20日オープンし、国道13号線の新しい道路側道に設置して集客を図っており、管理運営は米沢市内の企業30社と株式会社「アクセスよねざわ」が運営していて、農産物販売、特産品販売、米沢牛のレストラン、ラーメン店等のテナント5店、コンビニエンスストアがあり、18:00には24時間稼働部分と分けるため、フードコート側と農産物直売所側の防火シャッターが閉まる構造になっており、トイレ利用者との出入口が工夫されていました。

来場者数は入口のセンサー管理によって集計し、2024年度は年間171万人を超え、売上額も17億円にもなっています。

【部門別収入の割合率 2023年度】

物産品 38.9% 農産物 27.4% 飲食事業 15.7% コンビニ 7.7% ファーストフード 4.1%

その他 6.2%

【県別利用件数比較率】

山形県 26.1% 福島県 26.4% 関東圏 28% 宮城県 7.9% 新潟県 2.9% 近畿地区 1.3%

その他 6.1%

【所感】

本市では、日沿道の進捗に合わせた観光拠点としての地場物産や、朝日地域の観光をカバーする交流人口拡大機能を持ち合わせた「道の駅」や物産施設が必要と考えます。今回視察した「道の駅米沢」は全国の道の駅では第9位にランクインしている成功例となりますが、規模的にはリニューアルされる道の駅朝日とイメージもつながります。

財源では市債として住民公募債を発行することで、多くの市民を巻き込み地元愛を醸成し、マスメディアに取り上げられたことも大きく、施設の認知度拡大に成功したものと感じられます。

さらに、上杉の城下町を看板に掲げ、米沢杉を活用した館内のデザインをはじめ、ニーズに合わせて女性用トイレに個室を20箇所設置したり、子育て世代に配慮した設備もリピーターにつながり、来館者や売り上げの増加につながっているものと思われます。

農林水産業が盛んな本市においても、後継者不足や販路拡大に関する課題解決へ結びつけるには、物産販売事業に地元事業者と協働で活路を見出し、売上げを伸ばす努力と積極的なアプ

ローチ策が必要になると考えます。

近年、米沢市でも人口は減少しているものの、交通インフラを利用した地域活動の拠点となる道の駅に可能性を感じますが、週末は屋外イベントなども定期的に開催されていて、来場者数も年々増加しており、交流人口拡大により市全体の活性化につながっている状況が確認できましたし、地元産にこだわった新製品を独自に考案するなど、1日平均 5,000 人の来館者数は満足度も高いと感じられました。

災害発生時には一時避難所として防災支援施設としての機能等も兼ね備えており、本市でも再生可能エネルギーの普及促進も併せた整備を望みます。

道の駅の事業主体を民間にシフトし、地域の魅力を効果的にPRすることで特産品のブランド化や定住促進、観光誘客数増加など多面的な施策に向けて取り組んでいけるよう研究していきたいと思えます。

2 道の駅やまがた蔵王（防災道の駅）

運営主体:DBO 事業契約に基づく特別目的会社

管理・運営を「株式会社表蔵王ベルタウン」が行っている。

【事業費】

総事業費 33 億円

内訳:用地及び造成費 3 億 7,000 万円 建設費 16 億円 周辺道路整備費 4 億 3,000 万円
運営費 9 億円(15 年間)

【施設概要】

敷地面積 21,160 m² 建物本体延床面積 2,488 m² 駐車場:普通車:285 台 大型車:34 台
おもいやり駐車場 6 台 パーク&ライド 39 台 EV 充電施設 3 台

道の駅やまがた蔵王は令和5年 12 月3日オープンし、令和7年5月 14 日には「防災道の駅」として、広域的な防災拠点に位置づけられている全国 79 施設のひとつに選定されました。来場者数は入口のセンサー管理とAIによって集計し、2025 年度は年間 125 万人を超え、1 日の来場者数が 13,000 人を超える日が年間で 42 日間にもなっています。

【部門別機能】

- 1.<休憩>トイレ・休憩コーナー・ベビーケアルーム・駐車場・駐輪場
- 2.<情報発信>総合案内所・情報発信コーナー
- 3.<賑わい創出>樹氷ホール・飲食・物販コーナー・ラジオ放送ブース・車中泊スペース・芋煮広場・イベント広場・イベントスペース
- 4.<交通結節>バス停留所・バス待合所・パークアンドライド駐車場
- 5.<防災>防災倉庫・非常用電源装置・受水槽・マンホールトイレ

【所感】

道の駅やまがた蔵王は東北中央自動車道の山形上山 IC より車で3分の場所に位置し、山形県内の特産品やお土産等が多く並ぶ「ぐっと山形」と新鮮な野菜やフルーツを販売している「食の駅」が隣接しています。

既存施設との連携により、魅力発信を意識的に常に行うことで、人の流れを呼び込むゲートウェイ機能を果たす道の駅として、東北屈指の観光地である「蔵王」への登り口や「コストコかみのやま」の導線に位置していることから、観光客・地域住民・道路利用者など様々な交流が生まれ、多彩なジャンルのイベントが開催される大空間の樹氷ホールや、芝生の上で芋煮会などを楽しめる芋煮広場、高速バスや路線バスの待合所、無料のパークアンドライド駐車場などを備えた複合的施設です。

常に地域の魅力を発信することで自然と人々が集う空間になり、新たなビジネスを創造することを念頭において運営しているとのことでした。

「出会う」「つながる」「あなたと」「だれかと」をコンセプトにDBO事業方式で完全な民間運営で年間20億円の売り上げを達成し、NO借金経営を実現しているとのことでした。

年間を通して誰でも楽しめる空間を創造し、多目的ホールではラーメンイベント・音楽イベント・マルシェ・交流イベント・工芸や展示会の体験イベント・食のイベントなどを開催し、誰でも利用できる厨房が併設されていることで、天候に左右されずに室内でキッチンカー販売も可能となっており、利用価値の高さを感じます。また、イベントが開催されない平日には、子ども向けの遊具や卓球台を設置するなど、多くの工夫とアイデアが随所に見受けられました。

道の駅ガチャも1個300円で販売し大人気とのことでしたし、マッサージチェアも設置して長距離運転の疲れを癒す環境も整っており、利用者側の視点を捉えたものと感じました。

一方では、山形市民と利用者の安全・安心な場所としての防災機能を備えており、災害時には道路利用者や観光客、地域住民の一時避難場所としてだけでなく、自衛隊や消防等の関係機関が活動拠点として活用でき、駐車場での中避難も可能となっていました。24時間エリアでは、常設の大型モニターで道路情報や災害情報を提供し、倉庫には毛布などの備蓄品を備え、非常用電源装置と受水槽により3日分の電源と水が確保され、非常時に利用できるマンホールトイレも10基設置されていました。

また、道の駅独自に防災ネットワークを確立し、参加企業の19社と提携して緊急時にもいち早く対応できるように体制を整えたとのことでした。

運営者が目指すコンセプトは確かなもので、効果的なマーケティングを行うために車両集計システム「ナンバーアイ」を導入し、データ分析に基づくデジタルマーケティングへの変換を図り、プランを立てるための基礎データを取っているからこそ可能になるのだと感じました。

リーダーシップを発揮している駅長が市の観光部局出身ということもあり、地元を知り尽くしていることから企画運営にも影響を与え、必要かつ魅力的な人材も獲得できているように感じました。地域づくりと人材育成を関連付けながら営業利益を生み出す努力が随所に組み込まれる中、安定したサービス提供やコスト削減を実現していることは、本市の各施設の運営でも参考にすべきものと思います。

リニューアルする道の駅朝日においても、官民連携や運営事業者とともに観光マーケティングを戦略的に組み立てながら利益を追求し、本市に足を運んでくださる方々が満足感を持って、再び村上市に訪訪していただける動機を創出することが重要なのだと深く考えさせられました。

3 白石斎苑

4 柴田斎苑

運営主体:DBO 事業契約に基づく特別目的会社(地元8社 15年間)

管理・運営を「株式会社八重樫工務店グループ」が行っている。

【事業費】※「白石斎苑」と「柴田斎苑」の2施設を一括発注

総事業費 14 億 8,900 万円(白石斎苑)

内訳:工事請負費 11 億 5,600 万円 運営業務委託料:3 億 3,30 万円

総事業費 16 億 4,500 万円(柴田斎苑)

内訳:工事請負費 12 億 2,700 万円 運営業務委託料:4 億 1,800 万円

【施設概要】

(1)白石斎苑

構造:鉄筋コンクリート造 1 階建て(一部 2 階建て)

面積:敷地面積 8,117 m² 延床面積 1,304 m²

諸室等:火葬炉数 3 基 見送り収骨室 2 室 待合室 3 室(50 名/室)+待合ホール(50 名)

駐車場:普通車 51 台(障害者用 2 台含む) マイクロバス 3 台

(2)柴田斎苑

構造:鉄筋コンクリート造 2 階建て

面積:敷地面積 4,881 m² 延床面積 1,660 m²

諸室等:火葬炉数 4 基 見送り収骨室 2 室 待合室 4 室(50 名/室)+ 待合ホール(50 名)

駐車場:普通車 41 台(障害者用 2 台含む) マイクロバス 4 台

【所感】

本市の3火葬場(荒川火葬場普照園、村上火葬場無相院、山北火葬場)は、供用開始から約 30 年~45 年が経過しており、それぞれの施設や火葬炉設備において老朽化が進んでいることから、施設の再整備が必要となっています。

人口減少及び少子高齢化が急速に進んでおり、持続可能なまちづくりへの影響が懸念されている中、公共施設に関しては老朽化による修繕や更新のほか、維持管理に多額の費用が必要となっているのが現状です。

一方で、利用需要も変化してきており、火葬場の維持管理に係る諸問題も喫緊の課題と捉えています。DBO 方式で建替え整備事業に取り組んだ施設に注目をしています。

※DBO 方式=資金調達は公共が行い、設計・建設・維持管理運営を民間に一括発注

仙南地域広域行政事務組合では5つの斎苑を所管しており、このうち白石斎苑については昭和 47 年から、柴田斎苑については昭和 42 年度から供用を開始し、両施設とも 45 年以上を経過する中で、設備をはじめ施設全体の老朽化が著しく、今後の高齢化社会に起因する火葬件数の増加や多様なニーズへの対応を考え、新たな施設整備を進めてこられました。

事業実施にあたっては、民間事業者の創意工夫を活用するため、設計・建設・運営維持管理(15年間)まで発注する DBO 方式を採用し、事業費を削減するため白石斎苑と柴田斎苑を一括発

注しております。設計・建設は八重樫工務店をグループリーダーとして全7社、管理・運営グループリーダーを富士建設工業株式会社として全2社で仙南地域広域行政事務組合と基本契約を結んでいます。

発注側のメリットとしては、設計の段階から効率の良い施工方法を取り入れることができるため、工期の短縮やコスト削減ができたことや、15年間という長期の包括契約により、財政の平準化が図れ、将来の運営費まで含めたトータルコストで最適化された提案を受けることが可能になったとのことでした。

グループ構成企業のノウハウをフル活用したことで、どちらの斎苑も最新の火葬炉設備を導入し、環境に配慮しながら火葬件数の増加や多様なニーズにも対応できる施設となっていました。

両施設の現地視察においては、エントランスから施設内部に入ると落ち着いた雰囲気でお別れにふさわしく、レイアウトも会葬者のプライバシーに配慮した工夫がなされており、バリアフリー化された広い休憩スペースの確保をはじめ、キッズルームや授乳室など誰もが利用しやすい施設づくりが進められていると感じました。

また、普段は立ち入ることのできない炉裏も見学させていただき、最新の火葬炉設備では煙突等の排煙は必要なく、フィルターで対応できるそうで、構造上もコストを抑えられるとのことでした。

適正な火葬業務を遂行できる火葬場の整備に向け、本市の火葬場設計・建設にあたって今回の視察研修を生かし、維持管理運営が持続可能で、多様な市民ニーズに合致した質の高いサービスの提供が図れる施設になるよう、引き続き議会においても研究を重ねる必要があると感じました。